

砂浜にクロイワザサを植えよう

沖縄の島々の砂浜には幅 5 mm 程の竹の葉の形をした植物が自生している。クロイワザサというイネ科の植物であるが、亜熱帯、熱帯に分布している。この植物を増やして景観の改善を試みたらどうだろうか。

クロイワザサは地面を這うように生長し、草丈は 5 cm 程で、夏から秋に白い小さな花をつける。容易に芝状に密生するが、この状態になると他の植物が生え難く、砂の飛散も起こり難くなる。モンパノキ等の周りにクロイワザサが一面に生えた状態は沖縄の原風景の一つであろうし、木陰では地域住民、観光客がくつろげる場を提供してくれる。海水浴の休息の場としては最適である。

クロイワザサの芝地をつくるための育苗として、容易な挿し木を勧めたい。例えば茎を 10 cm の長さで採り、5 本程を 9cm ビニールポットに植え、茎の半分ほどを土壤に差し込む方法である。育苗では酸性土は避けた方がよい。土が乾かないように灌水すると 1 か月で移植苗が用意できる。移植は春、梅雨期、秋が勧められるが、干ばつ時に灌水ができれば夏でもよい。砂浜に生えているセンダングサ等の草丈のある雑草を引き抜き、苗を 30 cm 間隔で植えると半年もすると芝地ができる。クロイワザサは上を他の植物で被われると生長が止まるので、芝地になるまで定期的に雑草の引き抜きをする必要があるが、いったん芝地状態になると管理は極めて容易となる。漂着ゴミ等の回収も容易になる。クロイワザサだけの芝地もよいが、クロイワザサの間からハマダイコンやツルナ等の海浜植物が生えている景観もよい。これらの植物を必要に応じて上部だけ刈り取れば芝地は維持される。

クロイワザサの生長はおおむね旺盛で、短期間で地面を被うので遊休地、のり面等の植栽にも適している。沖縄芝(沖縄産のコウシュンシバの呼称として提唱している)と混植すると短期間にクロイワザサの芝地ができ、次第に沖縄芝だけの芝地に移行するので、この植栽法も勧めたい。ただし、クロイワザサは酸性土壌で生長は芳しくなく、また冬季に生長を止めることを留意する必要がある。植栽地での生長が芳しくない場合は、消石灰を散布するとよい。

県内の海岸、道路沿い、遊休地には外来雑草が繁茂して景観を損ねている。景観改善の第一歩として、作業成果が分かりやすい砂浜でのクロイワザサ植栽を奨励したい。雑草に被われていた土地に多様な植物が見られるようになると環境教育の場にもなる。夏の芝地を目指して、今から準備を始めたらいかがだろうか。